

「集まらない」 町内水かけ祭り

別所団地では、「3密」を避けながら、楽しく、安全に、町内のつながりを強化できないかと、町内水かけ祭りを8/22（日）に開催しました。

疫病を鎮めると言われる「アマビエ」にお供え物としてお菓子を、協力していただける家庭の玄関先にお供えします。お供えされたお菓子は、「アマビエ」の代わりにやってきた、子どもたち（幼児～小学生）がもらって帰ります。その際、その家の方は、玄関先にやってきた子どもたちにたっぷりの水をかけて、疫病退散を祈願します。



▲「コロナに負けるな。水をかけるよ！」



▲各家庭が工夫を凝らして準備

各家庭の「おいで、おいで」の声かけのもと、子どもたちが、「こんにちは」と挨拶して近づくと、「いらっしゃーい」と自作のジョウロなどで水をかけて出迎えます。子どもたちは、びしょぬれになりながら、置いてあるお菓子をもらい、「ありがとう」とお礼を言います。水をかけられた時の子どもたちの笑顔を見て、高齢者は喜んでいました。

300 世帯ほどの町内を、子どもたちとその親（若い世代）が歩きまわり、顔を合わせることはない高齢者とも言葉を交わし、「顔の見える関係」を築く第一歩となりました。

こうした「福祉」を前面に出さない自然な仕掛け（行事）が、住民同士をつないでいく一つのきっかけになります。